

9年間を通して育てる子ども像を共有し、
小中一貫した学びの実現に向けた授業改善の工夫

陵北中学校 二十四軒小学校 日新小学校 桑園小学校

研究内容について

【研究内容】

- (1) 目指す子ども像の共有に向けて
- (2) 小中一貫した学びの実現に向けて

【ねらい】

- 小学校と中学校で9年間を通した連続性、接続性のある学びを実現する。

【具体的な取組】

- 「思考力・判断力・表現力」を高めるノート指導
- 「対話的な学び」へつなぐ授業改善

具体的な取組

(1) 子どもの状況把握と課題分析

- 市教委「学習などについてのアンケート」を活用した分析（小5～中3を対象）。
→「授業中、自分の意見を進んで発言している」が各学年共通の課題。

(2) 仮説の設定

- 「自分の意見」をもつために、「思考力・判断力・表現力」を高める必要がある。
→「思考力・判断力・表現力」を高めることで、自分の意見を伝え合うことができれば、「対話的な学び」につながるのではないか。

(3) 小学校と中学校で目指す子ども像の共有

- 目指す子ども像：『主体的に思考・判断・表現し、対話を通して伝え合える子ども』

(4) 具体的な取組

- ノート指導～「コーネル・メソッド」を活用した指導
(＊小学校は高学年の国数理社～中学校は全教科で取り組んでいく)

これまでの成果と課題、今後の取組

- 陵北中学校区4校の『学ぶ力』育成プログラムで目指す子ども像を共有し、その実現のために、次年度より各校でノート指導を軸とした授業改善に取り組む。
→令和2年12月実施の「学習などについてのアンケート」で、中学1年生（現小学6年生）の経年変化を分析し、取組の効果を検証する。
- 年2回の小・中合同研修会を実施する予定である。